

タウンミーティング 聴きたい、話したい まちのこと

日 時 平成28年6月19日（日）午後2時～3時30分
場 所 上福岡二丁目集会所（上福岡二丁目町内会）
参加者 23人



主な意見等

参加者

ふじみ野市は子どもと高齢者にやさしい街であってほしいです。認可保育園が増えていますが、市の支出を減らすために公立ではなく民間の認可保育所になっているのではないのでしょうか。保育士さんも給料が安く、なり手がいないということもあります。若い世代がしっかりと育てていかなければふじみ野市が育っていかないと思います。

あと、高齢者については、新しくワゴン路線を作られていますが200円は高いと思います。往復では400円になってしまい、高齢者や妊産婦には負担になってしまいます。限られた人が使っているとはいえ、こういうことにはある程度税金を使っても良いと思います。

市長

保育所に関して言えば、全部市でやろうとすると莫大な金額になってしまいます。保育士については、ある程度の給料補償があつてやりがいを持って働いていければいいと思っています。このため、ふじみ野市では保育士の給料分の確保ということもあつて運営費の補助を増やしています。保育士はどこの自治体でも不足しているのですが、ふじみ野市ではハローワークで合同面接会の開催などをしており、引き続き保育士の確保をしていきたいと考えています。

保育所建設についてですが、公立保育所の建て替えには国は補助金を出しません。100名から120名定員の公立保育所を1園作ると、3億円くらい掛かります。公立では全額が市の負担になってしまいますが、民間であれば5千万円程度の負担でつくれます。少しでも、

保育を受けたいという方達の要望にこたえるためには、民間の保育園でいくしかないという思いです。

高齢者の方々の交通についてですが、公共交通は、鉄道しかりバスしかり、本来、民間のノウハウ、活力でやっていくものだと思います。ふじみ野駅・上福岡駅間のバス路線は廃止になってしまいましたが、これは採算が取れなくなったから撤退したということです。当然のことながら、そういったところと交通の便がいいところでは固定資産税や都市計画税の額も違ってきます。交通権の補償と言うこともいわれますが、そういう人たちには支援をしていくという姿勢でいます。本当に公平とはどういうことなのか難しいですが、今の実証実験で皆さんに200円いただいてどういう運行ができたかを検証し、負担をできるだけ小さくしていくことは可能かと思えます。ただ、バス会社、タクシー会社の民間の交通機関を含めた法定協議会を設けているのですが、民業を圧迫してはいけないというルールもあります。今後、検証していくにあたり、ご意見として承っていただきたいと思えます。

参加者 児童クラブでもそうですが、指定管理者という制度が使われています。これは契約期間で終了になって、違う事業所が「もっと安くできるよ」となってしまうと、それまでそこで働いていた人たちの行き場がなくなります。働いている人のことを考えている制度なのかと疑問に思ってしまう。指定管理者だと金額も決まってしまうので、給料アップもままならないし、若い人たちが安定して働ける場を作っていくためにはそういうやり方を変えていくよう考えられないのかなと思えます。

市長 指定管理者というシステムが国の制度で、公の施設としては、市で運営するか指定管理者で運営するかしか選択肢がありません。例えば、児童クラブに公務員を配置して市で運営するという事は、現在の財政状況ではできません。民間の事業者がどういう運営ができるか、それが民間の競争原理となります。若い人たちの非正規雇用は問題ではありますが、バブル景気の頃に自分たちの選択で正規雇用をやめ、自分たちで稼げるからと非正規に移った方々の割合も大きいのです。そうではない若い方の雇用安定については、どうにかしていかなければならないとは思いますが、それ以上は国に政策

を考えていただくしかない。私たちの選択としては、市の直営か、指定管理者かという選択しかないのが実情です。

参加者 うちには成人になった障がい者がいるのですが、学齢期までは市の施設とか生活サポートくらいにしか行かなかつたけれど、成人になると本人が自立していく上で職業、住居など支えてもらうことが多くなります。福祉の相談支援チームができたのでそこへ行き、そこで委託されている就労支援センターに相談してはいますが、相談を受けてくれる人が少なすぎて、答えがもらいたいときにももらえない状況です。また、その人の能力を超えたことを言うとうちにもならず答えてもらえない。もう少し福祉の人材を確保するとか、市として障がい者の働く施設を誘致するとか、自立していく機会をつくってもらいたい。障がい者への支援をしてもらわないと親がいなくなったときにどうなってしまうか不安です。

市 長 お子さんの自立に向けたサポートを充実していかなければいけないという思いはあります。障がい者に対する制度はまだ不十分ですが、就労支援センターはいつ頃ご利用されたのでしょうか。現在も、人材も人数も満足はいただけていない状況ということでしょうか。

参加者 こどもが高校を卒業するときに、次の作業所を探すために利用しました。電車が使えなく、近隣で探したのですが、都内の高校に行っていたため近隣の事がなかなかわかりませんでした。現在、通っているところでは、問題が起きて相談しても「ほかに移る気がないならこのままで」とやんわり断られてしまっています。

今の仕事は自分で探したのですが、就労支援センターにも入ってもらって、新卒だったので福祉課にも入ってもらって決めました。

ジョブコーチ的なことを期待していたのですが、そういった指導はあまりありません。就労支援センターの人員を一般の新聞広告で募集をしているのを見ましたが、そういう探し方はどうかと思います。福祉の能力がある人材を確保してもらいたいです。それと仕事面だけでなく、生活面でも支えてもらいたいです。児童の発達支援センターがありますが、それを大人にまで拡大できないのでしょうか。学齢期が終わるとそれで支援が終わってしまうということでは違うと思います。

市長 就労支援センターのシステム自体課題を抱えてしまっているのですが、今年の4月から入れ替えをしました。

障がい者への支援は、国の政策としても進んでいません。どこの地域の政策を見てもなかなか出てきません。そういった状況の中、発育発達センターを設けたいと思い、3年かけてようやく実現させました。今の制度上だと一つの政策をするにもかなりの時間がかかります。早めにその子にあった支援をすれば発達障がいを少しでも改善することができるので、発達支援センターを立ち上げましたが、もっとサポートできる制度作りが必要だと思います。国にも、もう少し手厚くしてもらわなければいけないのですが、成人になって自立していく移行期のサポートができるように力を入れていきたいと思っています。なかなかご満足はいただけないかもしれませんが、障がい福祉課にもご相談いただければと思います。

参加者 町内会の補助金に、運営費、事業費、光熱水道代の3つあって、上福岡2丁目では50万円もらっています。事業費補助は最大16万円で1事業あたり4万円となっています。これをもらうのに領収書などのコピーを全部で59枚提出しました。簡素化できないかと担当者に提案書を2回持っていったのですが、担当は補助金を払う側なので後ろ向きなのです。ネットで調べたら簡素化している市もあり、運営費と事業費を一本化してあるので、総会資料をつけるだけでいい事になっています。さいたま市・和光市・志木市がそうしているのでお願いをしたのですが、簡素化していない方の資料を見せられてしまいました。これについてはトップダウンでどうにかしてもらえないでしょうか。

市長 そういう対応をしたことは誠に申し訳ありません。市職員には「やれないことの言い訳をするなら、できる方法を考えろ」と言っています。商店街の申請事務も市議になったときすぐにやらせました。事務の複雑化というのは受ける側も複雑になって大変になっているということです。ただ、お金の絡むものなので、方法論としてきちっとしなければいけないということはあります。あと、事業費と運営費について、西側の地区と東側でお金のかかり方が違うという状況があります。西側は1地区を除いて公民館の分館を集会施設とし

て使っていますので、自治組織連合会に諮り、集会施設の見直しをしようと思っています。

話を戻しますが、方法論としては検討しなければいけないのですが、申請は簡素化していくべきだと思います。タウンミーティングでいただいたご要望は、すぐに経営戦略会議に諮っていますので、この件は改善できるよう担当課に話をします。

参加者 タウンミーティング集みたいなものを発行すると思います。「こういったものを実施した」とか、こちらも好きなこと言っているので「こういうことはできませんよ」と言ってもらっていいと思います。タウンミーティングによって実現したものが分かるよう発行してはどうでしょうか。

市 長 ホームページでは見られるようにしています。ホームページで見ると大変な量になってしまいます。全てではなくピックアップでそういうものを出すのは非常にいい考えだと思います。実現できたものとか、こういったものができなかったということ載せられるといいと思います。

参加者 県道の踏切はずっと渋滞していますがどうにかならないのでしょうか。

市 長 一時期アンダーパスを造るという計画がありました。合併前に国の事業認可もとっていたのですが、合併後に市長が替わり見直しもあり、私が市長になった時にはもう時間切れになっていました。西口側に補助金を使って先行取得した土地があり、本来であれば補助金を返還しなければならなかったのですが、雨水対策をするなど他の事業を実施することで返還しないでよくなりました。

当時のアンダーパスを作る計画では、総事業費で 60 億円かかることと、駅前名店街の半分をつぶさなければならないことから、同意が得られるのが非常に難しい計画であったと思います。

参加者 お出かけサポートタクシーは川越に行ったらだめなのですか。イ

ムス病院や南古谷駅を使いたいのですが、距離や額でここまでは補助を受けられるというようにしてもらうことはできないのでしょうか。市内だけでは使いづらいと思います。

市長 実証運行中である現在のところは、できません。ただ、お出かけサポートタクシーは市の面積が小さいので可能となっています。コンパクトなのですが、254 バイパスや東武鉄道、川越街道、関越自動車道が南北にあり、ふじみ野方面に行くには坂があるなど移動のしづらさがありますので、市の範囲内であれば半額補助をしてでもやりましょうということで実施しました。実は、あれはタクシーでなく移動手段なので、共通乗降所となっています。しかし、共通乗降所には各医療機関が全部はのっていませんので、これは見直しをさせていただきます。どこまで共通乗降所を設けるかについては、きりがなくなってしまうということもありますが、工夫をしていきます。補助についても、市境まで半額補助を出す、そこからは初乗りではなく実費を負担してもらうなどができるか課題として考えてみます。ただ、それをやってもまた課題は出てくるでしょうが、少しでも使いやすくなるよう考えていきたいと思っています。

参加者 上福岡駅東口の駅前ロータリーが歩きづらいです。横断歩道がロータリーの手前にあり、銀行のある方からだとぐるっと回るようになりますので、直接横断している方がほとんどです。危ないなあと思いますので、無理だとは思いますがどうにかならないでしょうか。
あと、ヨーカドーのところの横断歩道もスクランブル交差点でないで、信号が変わって歩行者がわたれるようになったときに車やバイクが飛び出してくるのを見ているので、スクランブル交差点の様なマークをつけられないでしょうか。

市長 スクランブル交差点のマークについては難しいです。
駅前ロータリーにつきましては、横断歩道の位置は警察との協議で決まっているのでここを動かすことは難しいです。交差する道の手前に付ける必要があり、また、横断歩道と横断歩道の距離もあまり近くにできないのです。ロータリーの道幅も狭いので広くしたいのですが、ロータリーの道幅を広くすると逆に車両を止められてしまうという問題があります。今でも、ロータリーで人を待っている

車が停まっていますので、市のワゴンなどは運転手が降りていって声をかけて動いてもらっているような状況です。昭和 30 年代にできた都市計画の半分がようやく完成したのですが、将来的には三井住友銀行側も広げていきたいと思っています。なかなか思うようにはいきませんが、何とか実現していきたいと思っています。